

漢字で学べば六倍以上の学習効果が！

ところで、幼児にたくさんの言葉を身につけさせるためなら、何も漢字を使わなくても、お母さんが意識的に語り掛けや読み聞かせを多くしてあげたり、あるいは、ひらがなを使って言葉を教えてあげれば十分、と考える方も多いと思います。

ひらがなと漢字の違いについては、この後、詳しく説明しますが、その前にまず、耳だけで言葉を学ぶのと、これに漢字をプラスした場合では、どんな差が出るのかをお話しておきましょう。

人は皆、赤ん坊の頃から、絶えずお母さんの言葉を耳で聞き、最初は、その言葉をそっくり真似ることによって少しずつ言葉を習得していきます。それは、誰もが経験してきたことなので、つい何でもないことのように思ってしまうがちです。

ところが、耳から入ってくる音声としての言葉というのは、次々に見せられては消えていってしまいますから、これをしっかりと記憶にとどめるのは、なかなかたいへんな作業なのです。

ところが漢字は、形のない音声としての“聞く言葉”とは違って、はっきりとした形をもつ、いふなれば目で“見る言葉”です。しかも、この“見る言葉”としての漢字は、いつまでも消えずに目の前に残ってくれますから、それ自体が記憶の助けとなり、ただ耳で聞くよりもずっと効率的に言葉を覚える助けになってくれるのです。

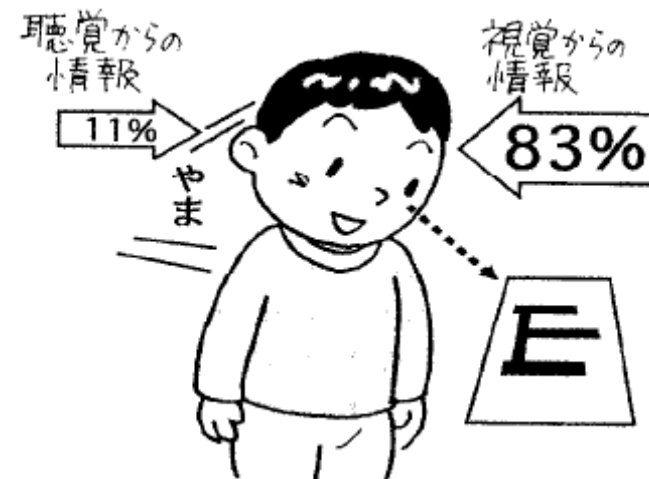
私はよく幼稚園や保育園の園児たちの前で、キーワードとなるいくつかの言葉を黒板に漢字で書きながら、お話を聞かせます。そして、

お話が終わった後で黒板に書いた字を指して「これは何という字だったかな？」と尋ねると子どもたちは、はじめて目にしたそれらの漢字を次から次へと間違えることなく読んでしまいます。視覚的な情報というのは、それほど記憶に残りやすいものなのです。

科学的にも、人間が五官(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)から吸収する知識のうち、視覚からの情報が約83%と圧倒的に多く、聴覚からの情報は約11%に過ぎないことが明らかになっています。

また、実際にアメリカで行われた実験で、知らない言葉を提示して翌日どれくらい覚えているかを調べたところ、翌日まで覚えていた人の割付は、目だけを使って覚えた場合が20%、耳だけの場合が10%だったのに対し、目と耳両方を使って覚えた場合は65%と、群を抜いた好成績が出ています。

つまり、このデータからすると、音声としての“聞く言葉”だけでなく、



“見る言葉”としての漢字と一緒に学べば、六倍以上もの学習効果が期待できるというわけです。

視覚情報の吸収が圧倒的に多い